

# 「市民交流の場もっと」



## 岩見沢市中心街に北大生「カフェ」

【岩見沢】中心市街の商業ビルで12月の約2週間、北大の学生12人が、市民と会話を楽しむ「コミュニティカフェ」を開いた。期間中、60〜70歳代を中心に1日10人ほどが訪れ、代表を務めた工学部4年の阿部麻友子さん(21)は「中心部に空き店舗が目立つが、岩見沢には活性化につながるチャンスはありそう」と話す。学生たちは今後、市に対し、まちづくりの提案も行う予定だ。(猫島一人)

### 代表・阿部さん

カフェは北大工学部と大学院の交通インテリジェンス研究室に所属する学生たちが企画、8日〜20日に開いた。「であえる岩見沢」内のバス待合室に使われる休憩室でお茶や菓子を提供。折り紙や塗り絵、バルーンアートを披露するなどして市民と交流した。訪れた市民の滞在時間は平均約50分となった。「マチのにぎわい作りを考える機会にカフェに来た市民に「若い人と話せてうれしいわ」と声を掛けられたという阿部さん

## まちづくり 市に提案へ

なった。何度も立ち寄った人もいます」と阿部さん。栃木市出身。高校2年の時に起きた東日本大震災で、津波が建物を押し流すニュース映像に衝撃を受けた。「災害に強く、安心して住めるまちが必要」と強く思い、北大に進み、社会基盤整備を学んでいる。今回のカフェ開設で「交流できる場がもっとあれば市民はマチに来てくれる」と感じた。空知の中核都市の岩見沢も人口減と中心街の空洞化が進む。未来の地域づくりに中心部の活性化は欠かせない。「図書館や文化会館の機能を中心部に持ってきてもらいたい」とライブラリアンは声を上げる。来春から大学院進学を希望している。「岩見沢に住む人の貴重な生の声が聞けた。研究に生かしたい」。阿部さんは今後、市街地活性化を主題とする論文づくりに取り組み、市への提言につなげる予定だ。